

PKO任務拡大

停戦合意が崩れている南スーダン

今回のPKO法の改定で、自衛隊に「安全確保業務」「駆けつけ警護」「宿営地共同防護」などの新しい任務が追加されました。任務遂行のための武器使用も可能となりました。これらの任務が南スーダンに派遣されている自衛隊の部隊に付与される危険性が高まっています。

南スーダンでは大統領派と副大統領派の武力衝突が激しさを増し内戦状態に陥っています。国連PKO部隊も「住民保護」の任務遂行のため交戦主体になっています。すでにPKO要員から36人の死者がでています。

ここで自衛隊の任務を拡大すれば、自衛隊が戦後初めて外国人を殺し、戦死者を出すという危険性が非常に高まります。政府は停戦合意が事実上崩れている現状を認め、PKO参加5原則に基づいて、派遣そのものを見直すべきです。

金儲けのためのショーと化す五輪

リオデジャネイロでオリンピックが、8月5日～21日の日程で開催。リオの施設の準備が遅れているのだ、犯罪が横行し警察官への貢金も遅配し、安全が心配だのと不安な情報ばかりがマスコミを賑わす。

そんな中、ロシアのドーピング問題が国家ぐるみだったと大問題になっている。IOCはロシア選手の参加を条件付きで認める決定をしたが…。こうなるとスポーツとは何なのか、オリンピックって何なのか疑問に思ってしまう。成績至上主義、そしてスポーツショーと化してしまったオリンピックには常にカネの問題が付きまとう。

2020年に予定されている東京オリンピックも早くもさまざまな問題が噴出。コンサルに渡した数億円は招致のための裏金ではなかったのか。さらにメイン会場の設計やり直し、聖火台の設計忘れに、ロゴ盗作とツッコミどころ満載だ。

以前からオリンピックに疑問を投げかけてきたスポーツジャーナリストの谷口源太郎さんは「『20年東京五輪に対しては“希望を持つな”』。その一言につきます。これまでのオリンピックの中で最悪のオリンピックです」と言い切る。東京への決定自体、本来のオリンピックの精神である「人間の尊厳」や「平和な社会」を根底から覆したものだからと憤る。

何が福島原発の汚染水は「アンダーコントロール」だ。全くと言っていいほど制御されていない。そして高額な裏金だ。日本の資本家たちのやりたい放題は世界でも有名だったが、日本のアスリートは、ドーピングでも競技のマナーでも、世界にクリーンなイメージを与えてきた。しかし、東京オリンピックでは安倍首相が嘘をつき、賄賂を贈ったのだから、他国と同様に汚い手を使うということを知った。五輪を金儲けのビッグチャンスと考える輩のおかげで、日本人選手や日本人そのもののイメージまで悪くなった。残念。いっそ返上もありか。

カイケンGO



ききょう